



峡東教育事務所
 地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2737
 FAX 0553-20-2733

- ◎ 回覧・配布をお願いします。増し刷り配布はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。
<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>
- ◎ ご意見・ご感想はこちらまで Email : saegusa-aszn@pref.yamanashi.lg.jp

「^{しゅう}周することなかれ」

6月8日、かつて例を見ない凄惨な事件が秋葉原で起こりました。この事件は、僅か2分ほどの間に17人もの方が死傷したことや、「劇場型殺人」といわれるように、携帯サイトへの克明な書き込みがあったことなどで、マスコミでも大々的に取り上げられ、背景として、雇用、コミュニケーション、インターネットなど、現代社会の問題点が数多く指摘されました。

私はこれらの報道に接し、孫子の「九変」という項にある「囲師は周することなかれ」という一節が脳裏に浮かびました。これは「相手(城)を取り囲むときは一部を手薄にし、逃げ道を作っておきなさい。」という教えです。「逃げ道の無くなったものはパニック状態に陥り、とんでもない行動に出るので、完全に追い詰めてはいけません。」という意味なのだそうです。

今回の事件は、どのような背景があったとしても、もちろん許されるべきものではありませんが、追い詰められ、パニックに陥る前に、何とか逃げ道をつくっていくことは出来なかったのでしょうか。

携帯サイトへの書き込みの中には、自らの家庭について次のような表現が見られます。

「親が書いた作文で賞を取り、親が描いた絵で賞を取り、親に無理やり勉強させられていたから勉強は完璧」「親が息子を自慢したいから、完璧に仕上げたわけだ。……」

新聞報道などでは、教育熱心な家庭であったとされていますが、この書き込みだけでは、どのような育ちをしていたのかは言えません。しかし、事件前日午後には、「…小さいころからいい子を演じさせられていたし、騙すのには慣れている。…」といった書き込みも見られ、親の期待と本人の思いとがかみ合っていなかった

のではないかという印象が強く残りました。

親子関係や家庭のあり方は、このような事件がある度にマスコミが取り上げ話題になります。先日、子育て真っ最中の年代の集まりに行く機会があり、「どこまで言ったりやったりして良いのやら、その加減を知りたい。」と聞かれました。その時に話したのは、以前私が教育相談の研修で教わった次のようなことでした。

「こどもが幸せになってほしいという基本的なスタンスが貫かれていれば間違いないと思う。でも、その思いが強すぎると、かえって自分の思いや夢を子どもに求め過ぎてしまうこともある。子どもの少ない経験の中で、親の思いまで理解し受けとめることは、とても難しいことなんじゃないかな。だから、親の求める内容がとても大切で間違っただけのものではなくても、いや、むしろ正しければそれだけ子どもは動きがとれなくなり、追い詰められていくこともあるんじゃないかな。そういうことだけは避けたいね。」

この話は、聞いた当時、自分自身の子育てにもとても参考になりましたので、受け売りで申し訳ないなと思いつつも、話してみたのです。

秋葉原の事件と親子関係のあり方がどう関わっているのかは、軽々に話せるものではありません。しかし、この事件は、私にとって家庭や親子のあり方を考える機会になりました。

勇気を出して困難な課題や目標に向かって行動していくとき、子ども達は疲れ、どこかで癒され充電したいと思うものなのでしょう。全てを委ねて安心できる時間と場所があることで、新たな行動力が生まれると思います。

家庭が、親が、子どもを追い詰めるのではなく、傷を癒し、新たな力を蓄える場となりたいものだと思います。親子関係にも「周することなかれ」は、生きていくのではないのでしょうか。

7月4日(金) PM 3:15 (受付 2:45 から) ~ 4:55, 山梨市民会館 3階「大集会室」において、峡地連と峡東教育事務所が共催する「**子育て講演会**」が行われます。講師は山梨県立大学の**坂本玲子先生**です。乳児期から思春期の“子育てポイント”を分かりやすくお聞きすることができます。当日参加もおおいに歓迎いたします。

< 御案内します > **パパのための子育て講演会**
パパをもっと楽しもう！

- <日時> 平成20年7月13日(日) AM 10:00~12:00
 <場所> 笛吹市石和図書館2F 視聴覚室
 <内容> AM10:00~11:20 (受付 AM9:40~) 講演会「僕が父性に目覚めるまで」
 AM11:30~12:00 「親子で楽しむ絵本ライブ」



安藤哲也さん(あんどう・てつや)

1962年生まれ。現在、10歳(女)7歳(男)0歳(男)の父親。パパの絵本ライブ、全国子育てパパ力検定、絵本の翻訳など、今日本で一番パパを楽しんでいるNPO法人Fathering Japan(ファザーリング・ジャパン)代表。著書に『パパの極意~仕事も育児も楽しむ生き方』(NHK出版)『絵本であそぼ!』(小学館)『本屋はサイコー!』(新潮社) 翻訳絵本に『ぼくとおとうさんのテッド』『ジミーのムーンパイ・アドベンチャー』(文溪堂)がある。

- <対象> 子育て中のパパ、または夫婦 50名 ※ 20人まで託児あり(未就学児まで)
 <主催> 笛吹市つどいの広場 ゆうゆうゆう
 <申込> NPO法人 Happy Space ゆうゆうゆう Tel:055-261-0218
 参加費無料 定員になり次第締め切りです。

< 御案内します > **お母さん 幸せですか**
第20回“全国親の会”甲府大会
 ~ひとりで悩まないで出かけていらっやいませんか?~

主催のNPO法人SEPY(セピイ)倶楽部は、不登校・ひきこもり・非行などに象徴される子供の心の問題解決を図るボランティアサークルです。今回は山梨県教育委員会の後援を受け、甲府大会を開催します。不登校・ひきこもり・ニート・家庭内暴力・摂食障害などのお子さんを持つ方、子育てでお悩みの方、教育関係の方々等、多くの方の御参加をお待ちしています。

- <日時> 平成20年7月13日(日) AM 10:00(受付)~PM 4:15
 <会場> 山梨県立男女共同参画推進センター 「ぴゅあ総合」 甲府市朝気 1-2-2
 <内容>第1部 AM 10:30~PM 1:00「体験談と質疑応答」
 講師 金盛浦子(東京心理教育研究所所長・臨床心理士)他
 第2部 PM 2:00~PM 4:15 「自律訓練法とグループダイカッション」
 <費用> 無料 定員250名 申込制(第1部のみ参加も可)。昼食は各自でお取りください。
 <申込> NPO法人SEPY(セピイ)倶楽部 担当:千葉さん(火~土曜 10:30~15:00)
Tel:03-3942-5006 /Tel:Fax:03-5940-4030

< 御案内します > **教科書展示会?ご存じですか?**

小学校・中学校・高等学校の教科書の採択にあたり、教職員等の調査研究に役立てるとともに、広く県民の教科書に対する理解を深める目的で、教科書展示会が下記2会場です。一度に多数の教科書を見ることのできる機会であり、申込等の必要もありません。お気軽に見学に来てください。平成23年度小学校、平成24年度中学校の、新しい学習指導要領全面実施に向け、教科書の編修・検定・採択作業がこれから順次行われていきます。

<会場名>	<期 日>	<開催時間>	<展示教科書>
東山梨合同庁舎2階202会議室 (甲州市上塩後 1239-1)	6/20~7/9 (土日休館)	9:00~17:00	小学校・中学校・高等学校
笛吹市役所南館3階ロビー (笛吹市石和町市部 809)	6/20~7/9 (土日休館)	9:00~17:00	小学校・中学校

【SSW(スクールソーシャルワーカー)活用事業】が、はじまりました。

いじめ・不登校・暴力行為・児童虐待等の問題行動の早期発見・早期対応を図り、問題を抱える児童生徒の置かれた環境(家庭・友人関係、関係諸機関等)に働きかけ、問題の解決にあたるために、峡東教育事務所に問題を抱える児童生徒に支援を行う専門家である2名のSSWが配置されました。

すでに5月から、峡東地域の全小学校・中学校・適応指導教室への定期的学校訪問を行い、学校の要請による訪問指導を行ったり、これまで以上に、学校と地域の組織や関係機関との連携と、それをコーディネートする機関の整備・機能の強化を図っていきます。



横森 三男先生
樫の実作業所理事長
前・県立甲陽学園長

初めての山へ登る時と同じような不安と期待で一杯です。皆様方のご支援をお願いします。



内藤 春美先生
元・中央児童相談所職員
元・県立甲陽学園職員

先生方、関係機関の方々と連携し、横森先生と頑張ります。よろしくお願いします。

【講演会報告】

5月9日(金)に甲州市青年会議所主催の「現代社会と子ども・家庭」～少子化時代の子育ち・親育ち～ 講師：加賀美尤祥(ゆうしょう)先生(山梨県立大学教授)の講演会が行われました。子どもと家庭をめぐる多岐にわたるお話の中から、2つの話に焦点を当てて報告したいと思います。

「虐待」というと、折檻とかお仕置きというような子どもたちに対する暴力的行為ととらえがちですが、「虐待」は、英語では、「子どもの不適切な養育(養育不全)」という意味合いで使われており、漢字そのものが持っている意味よりも、ずっと幅広い意味を含んでいることに留意しなければならないことです。親として子どもに接するとき、食事、睡眠など家庭生活全般にわたって、また、言葉づかいや子どもに接する態度など、子どもとの接し方そのものに「不適切な養育」をしていないだろうか振り返ってみる必要があると感じました。なぜなら、もっとも信頼し、大切にされるはずの親から適切に養育されなかった子どもは、「自分は大切な存在ではないのではないか」というマイナスのメッセージを与えられて、そのことが、自己感、自尊心を奪い、結果として自分を傷つける行為(自傷行為)や他者を傷つける行為(加害行為)、他者との関係に生きづらさを抱えてしまう(関係性の障害)を生み出してしまうことになるからです。

もう一つは、子どもの健全発達が保障されるために、「子育ての場としての家庭の役割」がいかに重要であるかです。家庭は、衣食住を基軸とする関係性の形成のために大切な役割を担っています。子どもにとって「親に全面的に依存した体験」こそが社会的に自立するための勇気となり力となります。必要にして十分な食事が与えられ、時には甘えやわがままを受け入れてくれ、害悪から身を守ってくれる安全基地としての家庭における生活体験が子どもの社会的自立を促します。親と子の正しい関係を回復することが、子どもの健全発達の権利を擁護するための基本であり、それを可能にする家庭・地域における子育て・親育ち支援システムの確立が求められています。



【エイズ市中学生訪問団が大和中学校へ】

6月13日、甲州市と友好都市である米国アイオワ州エイズ市の中学生訪問団22名(他引率5名)が、同校を訪問しました。生徒から習字を習い、中学校の先生も加わる津軽三味線の演奏をきき、大和中学校女生徒に継承されている「巫女の舞」を見学しました。上手に「夢」を書いた生徒は「言葉はあまり通じなかったが、ボディラングージで通じ合えた。」と話してくれました(通訳を介して)。

訪問団は14日以降、塩山中学校・塩山高校・祝小学校等を訪問し交流を深めていきました。



今回から、 峡東地域の高等学校の情報を順次掲載します。第1回は塩山高校です。

塩山高校生の活躍

平成20年6月作成

山梨県高校総体結果一覧(5月7日・8日・9日 小瀬スポーツ公園他)

- ◆学校対抗総合得点【男子】 第9位(46校中) 総合得点 15点
- ◆学校対抗総合得点【女子】 第29位(47校中) 総合得点 2点

○クラブ別成績

- 陸上部 ハンマー投げ8位
- 男子バレーボール部 1回戦 塩山2-1山梨、2回戦 塩山0-2白根 ベスト16
- 女子バレーボール部 2回戦 塩山2-1甲府昭和、3回戦0-2巨摩 ベスト16
- 男子卓球部 1回戦 塩山0-3甲府商業
- 女子卓球部 1回戦 塩山3-2吉田、2回戦 塩山0-3巨摩
- 男子弓道部 決勝トーナメント1回戦 塩山7-13韮崎 ベスト16
- 女子弓道部 決勝トーナメント1回戦 塩山7-8韮崎 ベスト16
- 男子ソフトテニス部 1回戦 塩山3-0富士北稜、2回戦 塩山0-3甲府昭和
- 女子ソフトテニス部 1回戦 塩山2-1巨摩、2回戦 塩山1-2韮崎
- 男子テニス部 1回戦 塩山2-1日本航空、2回戦 塩山0-2駿台甲府 ベスト8
- 女子テニス部 1回戦 塩山1-2甲府西
- 男子ハンドボール部 1回戦 塩山37-16日大明誠、2回戦 塩山43-18吉田、準決勝 塩山40-13吉田、決勝 塩山23-32駿台甲府 準優勝 関東大会出場
- 女子ハンドボール部 1回戦 塩山14-16韮崎
- 男子ソフトボール部 1回戦 塩山2-3東海甲府
- 女子ソフトボール部 1回戦 塩山10-1富士北稜、準決勝 塩山1-4甲府湯田、3位決定戦 塩山1-5大月短 第4位
- 男子柔道部 決勝リーグ3戦3勝 優勝 関東大会出場
- 女子柔道部 決勝リーグ3戦1勝2敗 第3位
- 相撲部 リーグ戦3戦3勝 団体優勝 インターハイ出場 個人1位稲田、3位力久 インターハイ出場
- 男子剣道部 1回戦 塩山0-5富士学苑 ●女子剣道部 1回戦 塩山0-3市川
- 男子空手部 1回戦 塩山0-4峡南 ●女子空手部 1回戦 塩山0-5日本航空
- サッカー部 2回戦敗退 対 富士河口湖
- 男子バスケットボール部 2回戦 塩山121-41農林、3回戦 塩山59-102航空 ベスト8
- 女子バスケットボール部 1回戦 塩山59-87巨摩
- 男子バドミントン部 1回戦 塩山3-0駿台甲府、2回戦 塩山0-3都留
- 女子バドミントン部 1回戦 塩山1-3東海甲府



最後まで全力 土壇場逆転



平成20年5月8日の山梨日日新聞で、紹介されました。

塩山、甲府工、日川、吉田の4校で争われた男子決勝リーグ。優勝の行方は塩山と甲府工が2勝同士で迎えた最終戦の直接対決に持ち込まれた。

1対2とリードされた副将戦、負ければ終わりという状況で、緊張して体が動かかなかったと力久満が技ありと、指導を二つ取られる。本人も、「一瞬、負けるかも思った」窮地だったが、「最後まであきらめない」と得意のすくい投げで逆転の一本勝ち。大将の稲田も、「おれが取らなきゃ、みんなが頑張った意味がない」と燃えた。

「高校最後の年だし、自分の限界まで、やるだけ精いっぱいやりたい。そう思って練習してきた」と成瀬は振り返る。「誰かが取るだろうではなく、みんなのために「おれ」が取らなければ」。自分への自信とともに精進してきた仲間への信頼が6年ぶりV奪還の原動力となった。

塩山柔道部は相撲部を兼ね、すでに関東予選を終えている相撲と両競技での関東大会出場が決まった。「やるからにはトップを目指す」。成瀬は力強く語った。